

# 「ながら愛される庁舎」 南部町新庁舎の完成

## これまでの経緯

新たに建設された南部町新庁舎は、平成28年（2016）6月から7月にかけて、役場庁舎のあり方にに関する町民アンケート調査を実施し、その後、建設用地検討委員会、庁内検討プロジェクトチーム、庁内検討会議、建設委員会設立を経て、平成30年（2018）には統合庁舎建設基本計画書を策定しました。

さらに同年5月には基本・実施設計業務プロポーザル選定委員会を設立し、8月に業務の設計者を特定。10月から11月にかけて町民ワークショップを開催するなどして、平成31年（2019）1月に基本設計が、令和元年（2019）5月に実施設計が完成。11月18日には地鎮祭を行つて本体工事に入り、令和3年（2021）3月19日に竣工。同年8月2日、無事に開庁の日を迎えるました。

**建設の理念・方針**

基本理念は、『質の高い行政サービスを提供できる 高齢者から子どもまで誰もが安心して集う まちづくりの拠点』とし、基本方針は「1. 気軽に立ち寄れ利用しやす



いちょう広場／高さ20mのシンボリックなイチヨウの樹は、新庁舎のランドマークにもなっている

1階窓口／1階には町民の利用頻度の高い窓口を集約し、利便性を高めている

い庁舎」「2. 効率的で機能性の高い庁舎」「3. 環境に配慮した安全な庁舎」「4. 町民が誇りと愛着をもてる庁舎」の4点を掲げています。

また、設計方針は、『地域がつながり、町民がつながる、集う「なごく愛される庁舎を目指して』とし、「1. 南部町の風土に根差した町民と共につくる「なごく愛される庁舎」「2. コミュニティが生まれる町民広場」「3. ユニバーサルでフレキシブルな庁舎」「4. 人と人をつなぎ、まち育ての起点となる庁舎」の4点を掲げました。

### 建物の特徴

#### 1 地域に根付く木々を囲んで建つ庁舎

ながくこの地域の人々を見守ってきたトチの樹や桜の並木、高さ20mのシンボリックなイチョウの樹を残し、庁舎に取り込むことで、この地域の歴史や風土を感じられる庁舎を目指しました。

#### 2 南部町の風土によりそつた「ミニユーティのうまれる庁舎

庁舎と地域交流施設を「いちょうロード」でつなぎ、いちょう広場、並木のある町民広場を取り込むことで、様々なアクティビティを創出する空間を目指しています。

さらに、芝生の町民広場の周辺は屋根のあるテラスやプロムナードで囲み、散歩や休憩、軽運動など気軽に利用できる空間としました。

高気密、高断熱、高効率な機器を採用、

#### 5 負荷低減に配慮した快適な庁舎

できる広々としたテラスを設け、自然に交流やにぎわいが生まれる空間が随所に設けられました。

#### 4 南部町の歴史や風土を感じられるデザイン

レンガ、南部アカマツ、コンクリートの素材を活かしたデザインで風格をもたせ、南部町の歴史や風土が感じられ、並木やイチョウの樹と調和する計画としました。

冷暖房負荷の低減を図りました。また、季節ごとの卓越風を考慮した平面形状と開口部の配置を行い、「いちょうロード」の上部にはバランス式自然換気窓を設置、煙突効果を利用して自然に空気の流れる空間をつくるほか、執務室には輻射式床冷暖房システムを導入することで、空気のムラ、ドライト感を低減し、快適な環境づくりを行っています。ほかにも、動線や平面、景観・立面、

防災、環境配慮など、細部に至るまで緻密な設計・施工がなされました。

#### 3 人と人をつなぎ、まち育ての起点となる庁舎

多様なイベント、市民の情報発信や交流の場としました。2階には開放感のあるガラス張りの会議室、3階には名久井岳を望むことが



3階展望テラス／南西方向に名久井岳を望む展望テラスは、町のPRスポットにもなるように計画されている



いちょうロード／庁舎と地域交流施設（いちょうホール・実習室・市民室・和室など）を結ぶ70mの通路



いちょうホール／遮音性に優れた可動間仕切りにより、2分割利用も可能



3階議場／議場内の腰壁に県産材の南部アカマツを使用